



どうすれば人は逃げるのか

神戸学院大学 防災聞き書き隊 安富ゼミ

目次

- 防災聞き書き隊
- 西日本豪雨
- 調査について
- アンケート調査
- インタビュー調査

防災聞き書き隊

〈活動〉

元マスメディア関係者である
安富教授のもとで災害情報について学ぶ

〈目的〉

インタビュー、アンケート調査を通して
意識調査の第一歩とする。

災害エスノグラフィー



防災聞き書き隊

災害エスノグラフィーとは？

災害の体験をした人へインタビューを行い、
教訓や知識をその人の言葉のまま伝える事

⇒災害情報には必須

「聞き書き」を重視しているから

そもそも災害エスノグラフィーとは何なのかを説明します。

災害エスノグラフィーとは、災害の体験をした人へ当時の様子についてどのようなことをしたのかインタビューを行い、教訓や知識を学ぶことです。

そのため、ただ単に事前に考えていた質問をするのではなく、会話のインタビュー中から深く掘り下げていくことが大切になります。

災害情報とは自身で調べることも重要ですが、より細かく知るためには人から聞き、そこから対策することも重要であるからです。



西日本豪雨

名称：平成30年7月豪雨

発災日時：2018年6月28日～7月8日

被害者数：死者・行方不明者 245人 重軽傷者 432人

岡山県 95人 倉敷市 52人
(真備町 51人 そのうち岡田地区 7人)

兵庫県 2人 灘区篠原台 0人



調査場所

岡山県倉敷市真備町岡田地区



兵庫県神戸市灘区篠原台



調査方法

【アンケート調査】

- ・ 倉敷市岡田地区…90枚
- ・ 篠原台…98枚

計188枚

【インタビュー調査】

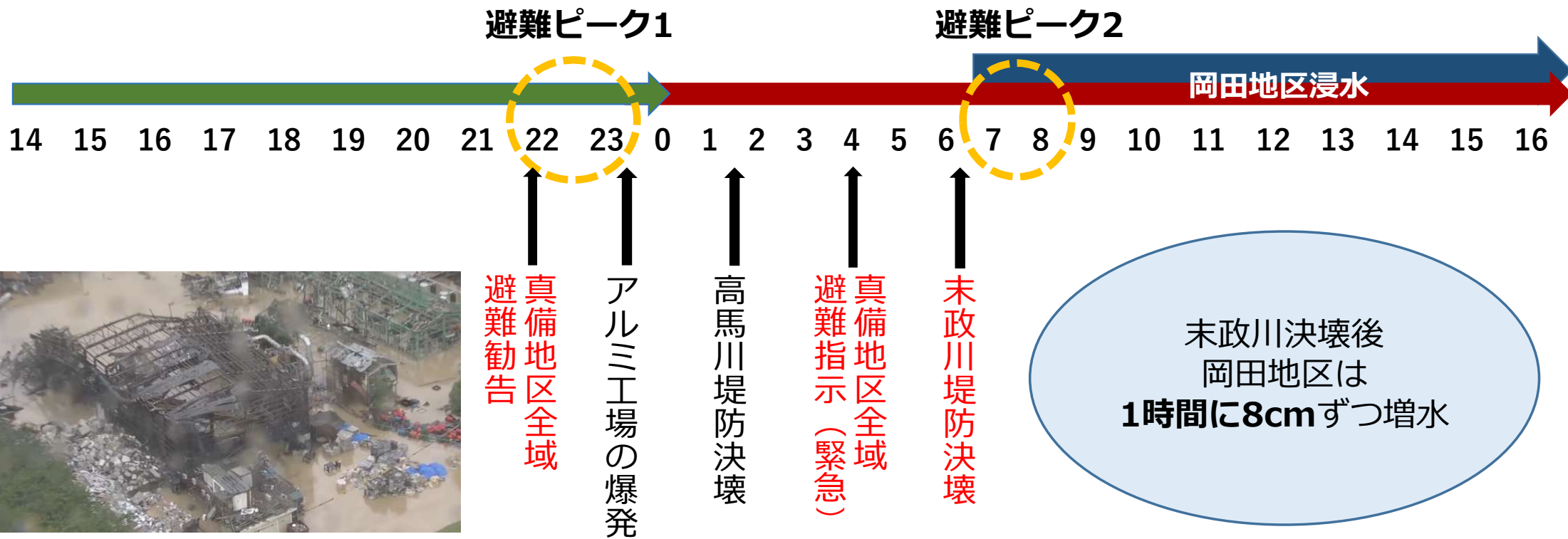
- ・倉敷市岡田地区… 7 人
- ・篠原台… 9 人 **計16人**

2018年7月豪雨についてのアンケート		
神戸学院大学・社会防災学科3年生の防災聞き書き隊です。		
今回、私たちは災害に対する「避難すること」の意識調査を行っており、その一歩として、アンケートをお願いするものです。		
集計結果は来年の1月に開催される「災害メモリアルアクション KOBÉ」にて発表致します。 よろしくお願ひ申し上げます。		
【Q1】あなたは避難しましたか。	はい	いいえ
【Q2】あなたはどこに誰といましたか。		
【Q3】Q1で「はい」と答えた方は何故逃げたのですか。		
「いいえ」と答えた方は何故逃げなかったのですか。		
【Q4】避難情報は聞いていましたか。聞いていた方はどのような情報ですか。	はい	いいえ
【Q5】当時、ハザードマップを知っていましたか。	はい	いいえ
「はい」の方はハザードマップを確認しましたか。		
	はい	いいえ
アンケートのご回答ありがとうございます。		
神戸学院大学 現代社会学部 社会防災学科 防災聞き書き隊 安富ゼミ一同		

～岡田地区～

7月6日

7月7日



アンケート調査1

- ・倉敷市岡田地区…90枚
- ・篠原台…98枚

Q1,あなたは避難しましたか

避難した

岡田地区…70人
篠原台 …56人

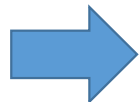
避難していない ※避難する必要のない人も含む

岡田地区…20人
篠原台 …41人

Q5,ハザードマップを知っていましたか

知っていた

岡田地区 …66人
篠原台 …69人



ハザードマップを確認した

岡田地区 …35人
篠原台 …41人



アンケート調査2

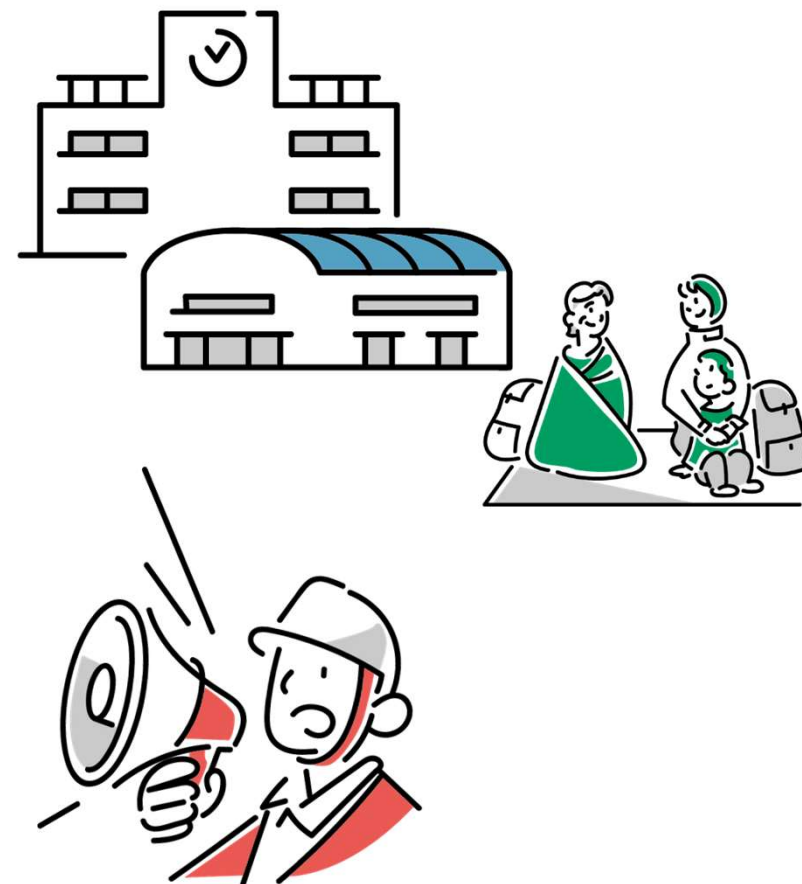
Q2,あなたはどこに誰といましたか (記述)

岡田地区…岡田小学校(避難所)、自宅、神社
篠原台 …自宅

Q4,避難情報は聞いていましたか

聞いていた情報はどんな情報ですか (記述)

- ・ 携帯の避難メッセージ
- ・ 消防警察の広報車
- ・ 屋外スピーカー (音だけ聞こえた)
- ・ 知人や親せきからの電話



アンケート調査3

まとめ

- **避難をした人**は、していない人に比べて、数は上回っているが、**災害発生時は自宅にいた人も多い**
- 篠原台では警察消防の呼びかけによって避難した人も多い
- ハザードマップは知っている人は多いが、**知ってる人でも見てる人は約半分**
- 家族や親戚、孫の電話で情報を得たという回答もあった



インタビュー調査

in岡田地区

【被害前後の様子】

7月6日 母親の看病のため、児島で1日過ごす

7月7日 テレビで真備町の被害を確認
避難者への炊き出しや物資の準備をするため岡田分館へ行く
※すでに末政川は決壊
「水がそこまで来ているから逃げろ」という声で避難

【考え・対策】

“今までのような明るい町を絶対に取り戻したい”

⇒岡田地区専用の資料を製作、地区の集まりを開く等
災害から岡田地区を守るために日々奮闘

2m50 c m浸水



インタビュー調査

in篠原台



【被害前後の様子】

7月6日 三宮にいる母親の元で過ごす
消防署から土砂崩れの危険があると連絡が来る

家の近くに流れてきた大木が土石流をせき止めたことで
被害はなかった

家にかえられないので会社で借りていた三宮
の別荘でしばらく過ごす

【考え・対策】

“特に災害が来ても不便なく過ごした。
後悔したのはここに土地を買ったこと”

インタビュー調査1

災害エスノグラフィー

北村 昌卓

岡田地区 岡野さん (70代女性)

「5年間準備や勉強をしてきたが、何も出来なかった。他地区から浸水が始まったが、その情報を入手できなかった。情報の共有の仕組みが必要だ」

覚田 怜

篠原台石田さん (30代女性)

「実際に泥水が流れてきているのを見て、避難した。ニュースなどで災害情報を見てもおそらく避難していなかったと思う」

青野 柚花

篠原台 山崎さん (70代 男性)

「災害の被害に遭っても意識が高くなる人と高くない人がいる。生活環境によっては、次に災害が起こっても家を立て直せばいいと言う人もいた」

インタビュー調査2

災害エスノグラフィー

大西 佑奈

篠原台近藤さん(57歳女性) 福井さん (58歳男性)

「助け合いの大切さ。避難する時はもちろん、安否確認もそうだし、災害後の復旧復興に向けての準備でもたくさん近所の人たちに助けてもらっていたことから、地域でのコミュニケーションを日頃から行なっていくことが大事だ」

神農 大澄

近藤さんと福井さん

「災害によって家が半壊になってしまい、周りの家はほとんどが取り壊しを選択していたにも関わらず、親が建ててくれた家をもう一度立て直したいという思いでいる。手を取り合って、周りの人にもたくさん助けてもらいながら家を建て直し、辛い経験だったけど今は幸せだ」

中山 翔

近藤さんと福井さん

「また、次同じような災害が起きても、もう逃げられないし、変な話、ここで死んでもいいという割り切ることが出来た」

インタビュー調査3

災害エスノグラフィー

石井 颯

篠原台田中さん

「事前避難を周りに促すなど周辺住民と協力して避難した。貯蓄として1週間分の水と食料を持っていた」

高村 駿斗

篠原台前谷さん

「避難情報（天気予報）をテレビでずっと見ていてそれで土砂が流れたらすぐに逃げなければならないと素早く判断した。」

岡田地区 藤本さん

「避難場所に若い人がたくさんいてその人たちがボートなどを使えば助けれる命が増えただろう」

中山 あずさ

岡田・篠原台両地区から

「自分のことは自分でしか守れないからまずは逃げるのが一番だ。そして、少しでも違和感や不安があれば避難情報関係なく思い切って逃げるのが大事。安易に考えずに防災グッズを日頃から準備しておくことが大切」

インタビュー調査4

災害エスノグラフィー

三森 悠大

篠原台(30代女性)

「常に家の中を整理しておくことで避難時に持ち物を考えないようにできる。特に子供がいる家としては、逃げる際にランドセルなどの高級品は流されてしまっても買い直すのはしんどいので、子供のものは持って逃げるようにする必要がある」

岡田地区(30代男性)

「地区内でグループを作ることで班長を中心に日頃から連絡を取り、災害時に焦りを少なくできることができると感じた」

母利 智哉

岡田・篠原台両地区から

「災害情報を人に伝えるときに大切な事は、誰が聞いても理解できる内容であるかそして災害時に人に伝わるものであるか。土石流や雨の音などの災害音で、防災無線の声がかき消されて、住民に聞こえていなかった。そのため避難が遅れた人もいた」

インタビュー調査

まとめ

in岡田地区

- ①元々災害意識の高い人が多い（日ごろから災害研修を行う）
- ②岡田地区は今まで浸水したことが無かったからこそ大丈夫だと思っていた
- ③災害当時、晴れていたため**一度家に戻って被災した人が多かった**

in篠原台

- ①実際に土砂が流れてきているところを見て避難した人が多かった
- ②自分の判断で逃げた人が多かった

ご清聴ありがとうございました

